

道徳通信

大田区立馬込第三小学校

東 山 良 彦

道 徳 部

令 和 3 年 1 0 月 2 0 日

第 3 号

2学期が始まったかと思うと、あっという間に9月が終わり、10月も中旬に差し掛かりました。夏季休業中には、東京2020大会（東京オリンピック・パラリンピック）が開催され、多くの選手の活躍があり、様々な思いを抱かれたと思います。道徳科の教科書には、実在の人物を取り上げられた教材があります。歴史上の人物や社会の発展に大きく貢献した人物です。オリンピックやパラリンピックを取り上げた教材もあります。今回は、オリンピックやパラリンピックに視点をあてた特集を考えました。少し、時期は外れてしまいましたが、楽しく読んでいただけると嬉しいです。

さて、1年生から6年生の教科書の中に、どのようなオリンピックやパラリンピックに関わる教材があると思いますか。教材の名前を調べてみました。

- | | |
|-----|----------------------------|
| 1年生 | コラム「ころをうごかすスポーツ」（荒川静香さん） |
| 2年生 | コラム「スポーツだいすき」たすけ合う、ささえ合う |
| 3年生 | 「自分をしんじる心—体そう選手・白井健三—」 |
| 4年生 | 「ゆめに向かって、ジャンプ！」 |
| 5年生 | 「今しかできないことをがんばって！」 |
| 6年生 | 「オリンピックのくれたもの」 「ペルーは泣いている」 |

具体的な人物が登場しているのは、3年生以上ですね。題名から、3年生は、体操の白井健三選手のことだと分かるのですが、他の学年の教材は、題名だけでは、ちょっとわかりませんね。では、「ゆめに向かって、ジャンプ!」「今しかできないことをがんばって!」「オリンピックのくれたもの」「ペルーは泣いている」は、どの人物を取り扱った教材なのでしょう。ヒントは、下の写真やイラストです。いかがですか。分かりましたか。



吉田沙保里
(レスリング選手)



佐藤真海
(走り幅跳び選手)



加藤 明
(バレーボールの監督)



たか子さん (架空の人物)
オリンピックのボランティア

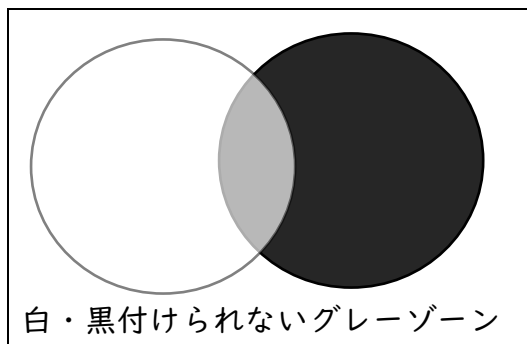
「ゆめに向かって、ジャンプ!は、佐藤真海さん」「今しかできないことをがんばって!は、吉田沙保里さん」「オリンピックのくれたものは、たか子さん（架空の人物）」「ペルーは泣いているは、加藤明さん」他の出版社の教科書には、池江璃花子さん、高橋尚子さん、国枝慎吾さんなどが掲載されています。選手の努力や思い、または、国際理解や勤労について考えていきます。5年生の教科書に近代オリンピックの創始者であるクーベルタンの言葉が載っているので紹介します。

「人生にとって大切なのは、成功することではなく努力することである。それは勝ったかどうかではなく、よく戦ったかどうかにある。」

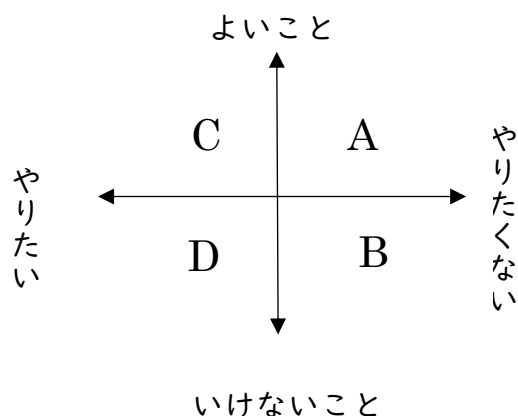
選手の活躍は素晴らしいものです。活躍の裏側には、熱意や思い、感謝など様々な思いがあるのでしょうか。結果だけにとらわれずに、過程にも目を向けて、思いや願いを大切にしていきたいです。

白黒付けられない問題

私たちが過ごす、社会の中には、何が正解で何が不正解なのか、分からないことがたくさんあります。まして、コロナ禍の中では、様々な思いや考えがあるでしょう。出かけることは悪なのか。友達と会って、話したいけど、今は控えた方がいいのか。少人数なら大丈夫なのだろうか。では、声をかける友達と声をかけない友達が出てきてしまうのは、仕方のないことなのか。普段の生活の中で、何が正解で何が不正解なのか、分からないことがあります。道徳の授業の中でも、白黒付けられない問題を考えることがあります。



このグレーゾーンの感じ方や考え方は、人それぞれです。いろいろな考えに触れることで、自分では気付かなかったことを考えることができます。また、自分の考えを、あらためて見つめることにもつながります。何が正しいのか、何が間違っているのかということではなく、それぞれの人が、どう感じているかをしっかりと見つめる時間が、道徳の授業です。



Aは、よいことだけど、やりたくないこと
Bは、いけないことで、やりたくないこと
Cは、よいことで、やりたいこと
Dは、やりたいけど、いけないこと

私たちの身の回りには、様々な出来事があります。「よいことで、やりたいこと」は、より良い行動に表れるでしょう。「いけないことで、やりたくないこと」は、良くない行動を避ける姿として表れるでしょう。では、「やりたいけど、いけないこと」「よいことだけど、やりたくないこと」これらに出合ったとき、何を感じたり考えたりするのでしょうか。「ご飯の前だけど、お菓子をたくさん食べたい。」「早く寝ないといけないと分かっているけれど、もっと起きていたい。」など、子供たちの世界には、迷ったり悩んだりすることはたくさんあります。大人の私たちでも、迷うことはたくさんあります。

命は大切にすべきと分かっているけど、安楽死や尊厳死についてどのように考えますか。

きまりを守ることは、集団生活の中でとても大切なことです。ただ、例外を認めることについて、どのように考えますか。おそらく、分かり切ったことや理屈通りには私たちは生活することが、難しいのかもしれませんが。例えば、公共のバスの中で小さな赤ちゃんが泣いているとしたら、「みんなが使う場所では静かにしてくれないと困るから、静かにさせてくれ。」と言われても無理があります。「うるさくて困るからバスから降りてくれ。」という社会では、とても窮屈で冷たいものになってしまいます。

私たちが過ごしている社会には、きまりやマナーもあります。思いやりや親切も大切にしていきたいです。白黒つけられない課題について、一人一人が真剣に考えることが、より良い生活に結びついていくのではないのでしょうか。

